

コガネムシ類（ドウガネブイブイ、ヒメコガネ、マメコガネ等）

○ 被害と発生生態

コガネムシ類には多くの種類があるが、山口県で被害が問題になるのはヒメコガネ、ドウガネブイブイ、マメコガネ等である。これらコガネムシ類の成虫は6月～9月に発生し、ブドウ、カキ、クリ等の広葉樹や、ダイズ等の葉を食害する。幼虫はダイズ、サツマイモ、イチゴ等の根を食害し、生育不良や枯死の原因となる。

◇ドウガネブイブイ：成虫は体長約 25 mm。体色は全身暗銅色。近縁種のアオドウガネは体色が緑～青色。

◇ヒメコガネ：成虫は体長 13～16 mm。体色は緑色～赤銅色で変異が多い。全身に金属光沢がある。

◇マメコガネ：成虫は体長 9～13 mm。前胸背は光沢のある緑色。翅は外縁部を除き黄褐色～褐色。

コガネムシ類は未熟な堆肥など、有機物を含む土壌に多く産卵する。幼虫は有機物や植物の根を食べて成長し、深い土中で越冬する。3月下旬頃から地表近くに移動して食害を再開する。

○ 防除方法

(ア) 耕種・物理的防除

- ・未熟な堆肥の施用を避ける。
- ・連作すると被害が多くなるため、ダイズ等では2～3年で水田に転換する。

(イ) 薬剤防除

- ・成虫が集まっている果樹等を防除し、成虫による食害と産卵を防止をする。
- ・ネオニコチノイド系または、有機リン系の殺虫剤で防除する。



コガネムシ類成虫
(ドウガネブイブイ、アオドウガネ、ヒメコガネ、マメコガネ)



コガネムシ類幼虫



ヒメコガネ幼虫によるダイズの被害



根を食害されたイチゴ苗（右）